



2020年6月20日

東村山稲門会
会員各位

東村山稲門会会長
大内 一男

2020年度ホームカミングデー・稲門祭の開催中止 校友会各支部・稲門会への自粛要請期間再延長(年内)の対応について

皆様におかれましてはこのたびのコロナウイルス禍により、巣ごもり生活等多大な影響を受けられ、ご不自由な思いをされておりますこととお見舞い申し上げます。

さて、5月25日(月)緊急事態宣言が解除されました。それに先駆け5月22日(金)、別紙(3頁)の通り早稲田大学・早稲田大学校友会から年内に予定されていた会議・各種総会・会合・イベント等の校友会・稲門会活動(実際に集まったの活動)については開催を中止・延期とする措置を9月19日(土)から年内12月末まで再延長させていただきますとの通知があり、更に今年度ホームカミングデー・稲門祭の開催中止の発表がありました。また、同通知には学生への「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」への協力依頼が併せてありました。

東村山稲門会としての対応を、メール、ビデオ会議他により役員の皆様と審議の結果、下記内容にて決定する事にいたしました。会員の皆様におかれましては昨今の状況に鑑みご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

今回のパンデミックの収束には年単位の時間が必要とされ、人々の働き方や暮らしに大きな影響が出ています。三密を避けるため当会会員間の交流も遮断され、長年培ってきた関係性にも影響を及ぼしています。ビジネス、教育他あらゆる分野の人々の交流はメール、オンラインとWebの活用が推奨されテレビもリモート出演による番組作りが増えました。ウィズコロナという新しい生活様式に適応せざるを得ないなど、目まぐるしい状況の変化が現出しています。このような困難な時こそ当会の存在が少しでも会員の皆様の拠り所となるよう努力して参りたいと思っております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

緊急事態宣言は解除されたとはいえ、感染予防には細心の注意を払い、くれぐれも自衛と体調管理にお努めくださいますようお願いいたします。

記

(1) 年内予定していた実際に集まったの会議は全て中止します。但し東村山稲門会第25回総会は下記進め方により実施します

- | | |
|--|----------------|
| 1. 9月25日(金) ZOOM ^{注1} ミーティングによる運営会議 | 事業報告案・決算案・監査 |
| 2. 10月10日(土) ZOOMミーティングによる運営会議 | 事業計画案・予算案 |
| 3. 10月30日(金) メールおよび郵送による役員審議 | 議案書・資料 |
| 4. 11月中旬 メールおよび郵送による会員審議 | 東村山稲門会第25回総会 |
| 5. 11月20日(金) ZOOMミーティングによる運営会議 | 東村山稲門会第25回総会総括 |

(2) 予定していた10月11日(日)お誕生会 12月12日(土)市民雑学講座は中止とします

(3) 学生への「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」の支援のため下記1~3の寄付を早稲田大学宛実施します

- 東村山稲門会会計から緊急支援金用として 金100,000円
- 東村山稲門会会計からサポーターズ倶楽部 金50,000円 (今年度予算計上分)
- 会員有志個人の寄付金拠出希望者向けの募金システムを検討し集めた浄財。

(次ページへ続く)

(前ページより)

- (4) 活動自肅による会内交流の断絶は Web を積極的に活用する事により回避したい
つながりを維持するため ZOOM、LINE^{注2}の使用を希望する同好会・グループについては事前準備、事前
体験を事務局および技術スタッフが支援します。
- (5) 年内の同好会活動について
実際に集まっての活動の延期・中止の再要請という通知を尊重し、年内の活動は休止とします。但しビデオ
会議等活用による同好会内の情報共有・交換は推奨します。
- (6) 6月号～12月号までの定期刊行としての東村山稲門会ニュースは休刊とします
今回の早稲田大学・早稲田大学校友会からの通知および当会の決定は臨時のニュースを発行し、メールを
使用していない 65 名の会員にはネットで印刷し郵送します。アドレス所有者 103 名にはメールに添付し
通知します。今後、全会員に知らせるべき事項が発生した場合、その都度臨時のニュースを発行し、前述
の方法により郵送およびメール添付で通知します。 以上

注 1) ZOOM とは、パソコンやスマホを利用して無料で簡単にビデオ会議ができる、今人気のアプリです。
東村山稲門会でも、運営会議や同好会の打合せで利用され始めています。

注 2) LINE とは、スマホを中心に広く普及しているコミュニケーションツールで、短い文とスタンプで会
話する特徴をもち、メールよりも気楽な会話として使われています。

会からのお知らせ

○令和 2 年 6 月ビデオ会議実施

日 時 令和 2 年 6 月 2 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 00

アプリ ZOOM

○5 月 22 日時点新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う校友会通知について

3 ページに掲載いたしました。2020 年度ホームカミングデー・稲門祭開催中止および校友会各支部・稲門会
への要請期間延長 (年内) により東村山稲門会の年内の諸活動 (実際に集まっての活動) は開催中止となります。

○新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金について (団体寄付)

東村山稲門会から 10 万円を寄付することとします。尚、予算に計上しましたサポーターズ倶楽部へは、別
途 5 万円寄付します。

○同好会活動について

実際に集まってする活動は年内中止とします。各同好会は、ビデオ会議・メール・郵便によって会員相互の
コミュニケーションをとっていただきますようお願いいたします。

○会員土橋雄次様による東村山稲門会への寄付について

5 月 11 日ご本人様より多額の寄付をいただきましたのでご報告します。

○住所変更 (5 月 16 日付け)

中村久憲さん 神奈川県川崎市

会員有志による母校学生への個人募金のお願い 「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う学生への緊急支援金」募集

6 月 5 日役員会の決定に従い、家計支持者の収入激減や学生本人のアルバイト収入減少等で修学継続が難し
くなる学生を支援するため、会員の皆様個人による募金を下記の通り実施いたします。よろしくご協力の程お
願い申し上げます。

記

1. 期 間 6 月 20 日 ~ 7 月 31 日
2. 金 額 1 口千円として 2 口以上 なお税制上の優遇措置策も検討予定
3. 振込口座 みずほ銀行 久米川支店 普通預金 1876557
名 義 早稲田大学東村山稲門会
振り込み費用はご負担をお願いします。
4. 担 当 岡田一郎 電話 080-1078-4641 E-mail i-okada96@jcom.home.ne.jp
山本岩男 電話 090-6011-8139 E-mail yamamoto.i@jcom.home.ne.jp

以上

5/22 時点]新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う 2020 年度ホームカミングデー・稲門祭の開催中止および 校友会各支部・稲門会への要請期間再延長（年内）について

2020 年 5 月 22 日

今般の新型コロナウイルス感染拡大は、日本国内のみならず、世界的な感染流行となり、人々の生活にも深刻な影響を与えました。国内では新規感染者数は減少してきているものの、依然として油断のできない状況が継続しています。こうした状況の中、早稲田大学は 5 月 11 日（月）からオンラインにて授業を開始し、様々な方法で教育力をいっそう強化し、その成果を学生のため、社会のために還元できるよう懸命に努力を続けています。さらに、学生や関係者の命・健康を守るために、早稲田大学が集団感染の発生源にならないようキャンパスを立入禁止にするなど、細心の注意を払ってきました。

早稲田大学校友会についても、感染拡大防止のため、校友会・稲門会関係の活動を中止・延期とする措置をとっていただくようお願いをするとともに、今後の活動の再開時期についても検討してまいりましたが、卒業生（以下校友と記す）の皆様の健康を第一に考えると、少なくとも今年中はこの措置を緩和することはできないという結論に至りました。校友会といたしましては、校友の皆様にもこれまで（コロナ感染前）と同様に、安心して楽しく活発に活動していただける日が早く来ることを願っています。その一方で、特に校友会・稲門会活動では沢山の方が集まって懇談や飲食を共にする機会が多いこと、感染すると重篤化するリスクが高いと言われていられるご高齢の方も多いため、一層の注意が必要であると考えました。

つきましては、年内（2020 年 12 月末まで）に予定されていた会議・各種総会・会合・イベント等の校友会・稲門会活動（実際に集まった活動）については、開催を中止・延期とする措置を延長させていただきます。そして、10 月 18 日（日）に予定しておりました 2020 年度「ホームカミングデー」および「稲門祭」についても苦渋の決断ではありますが、今年度は開催中止とさせていただきます。ただし、今年ご招待させていただき予定であった卒業年次の皆様については、来年 2021 年度の「ホームカミングデー」「稲門祭」にお越しいただけるようにいたしますので、感染が終息した後、存分に旧交を温めていただくことを楽しみにさせていただきますと幸いです。

なお、9 月 26 日（土）に予定しておりました秋の「代議員会」「幹事長事務局長会」についても開催はせず、必要な議決についてはメール等での審議とさせていただきます。

今年中については、校友会・稲門会関係の諸活動において、審議や相談が必要な場合にはメール・郵送・電話・インターネット機能（オンライン）など極力感染リスクの少ない形でご対応いただけましたら幸いです。そして、どうしても集まって活動する必要が生じる場合には、国・各自治体等の注意点をきちんと遵守し、密を避けて人との距離を設けるなど、くれぐれも自衛と健康管理にご注意いただくことをお願いいたします。

年明け 2021 年 1 月以降の対応等につきましては、国内外の状況を注視した上で、あらためてご案内いたします。早稲田大学校友会においても、設立以来の前代未聞の事態であり、活動を楽しみに予定されていた関係者の皆様には大変心苦しく思っておりますが、どうか健康面・安全面を第一にお考えいただき、新型コロナウイルス終息後の活動再開を目標に、ご理解とご協力のほど、宜しく申し上げます。

また、早稲田大学では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、家計支持者の収入激減や学生本人のアルバイト収入の減少等で修学の継続が難しくなる学生を最大限支援すべく、「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援金」を新設し、多くの校友の皆様にも早々にご支援をいただいております。この点につきまして、心から御礼を申し上げます。しかし、経済的に困窮している学生は大変多く、さらなる支援の拡大と継続が必要です。早稲田大学の学生が、誰一人として不本意にも経済的理由により修学をあきらめることのないよう、校友の皆様の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。

感染拡大防止の観点から、ホームカミングデー・稲門祭を含めた年内の諸活動（実際に集まった活動）は開催中止・延期のお願いをすることになってしまいましたが、早稲田大学ならびに早稲田大学校友会の“宝”である校友の皆様にも命に関わる感染リスクを背負わせることはできないという思いからの苦渋の決断であることをどうかご理解ください。

そして、校友の皆様におかれましても、このコロナウイルス関連による影響が、お仕事や生活面にも大きく及んでいることと思います。しかし、このような辛い時、逆境に強いのが早稲田人であると確信しております。早稲田大学と校友の皆様をはじめとする早稲田関係者が、早稲田精神（ワセダスピリット）を胸にこの世界的な危機を克服し、乗り越えて行けることを心から願っております。校友の皆様の温かいご理解と力強い継続的なご支援をなにとぞ宜しくお願い申し上げます。

早稲田大学総長・校友会会長 田中 愛治
早稲田大学理事・校友会代表幹事 萬代 晃

同好会だより

当会会員及びご家族の方は、いずれの同好会にも自由に参加できます。

園芸の会

世話人：當間 昭治 TEL 042-391-6023

恒例の「春まき草花の苗の交換会」を、5月14日午後2時から世話人宅で行いました。三密を避け屋外で実施、いつも通り参加者から近況報告と持ち寄った苗の紹介、そしてその育成の苦労話をしてもらいました。集まった苗はジニア・アスター・ニゲラ・ケイトウ・ゴデチャ・サルビア・ペチュニア・マリーゴールド・トマト・ナス・インゲン等で350個程でしたが、その多くを例年通り藤澤さんに提供いただきました。

年内活動自粛でこの苗の開花状況を披露する機会が無いのは残念ですが、写真等で収めていただき、ご苦労話に花が咲く日が来る事を願っています。

今回参加者：岡田、木谷夫人、小菅夫妻、
當間夫妻、富澤夫妻、福田（昇）、
藤澤、三宅



編集後記



○かつて経験したことのないコロナ禍の中、心を一つにして支えあう人たちの情景に多く出合った。最前線で働く医療従事者への感謝の気持ちを伝える街の人たちの拍手。休業のため無収入の飲食店が弁当を医療従事者に無料で提供。異業種ながら技術を生かし、不足する「マスク・フェイスシールド」等を製作し届ける人たち。さらに休業中のホテルは夜間、部屋の明かりを灯して楽しい絵柄を浮かび上げ、人々の心を癒した。また、花火師たちが連携して全国一斉に打ち上げた花火は、夜空を飾り人々に元気と笑顔を届けた。
自分のことを後回しにしても他人を思いやる日本人の気質がきっとこの困難を乗り切れると信じている。
(滝来 京子記)

○現在、定期刊行ニュースは休止中ですが、今後の臨時ニュースに是非掲載したい方は投稿ください。

送付先 山本 岩男 FAX：042-391-7976 E-mail：yamamoto.i@jcom.home.ne.jp

メールで投稿される方は、山本以外の下記編集委員にも、同報メールをお願いします。

小菅 宏 hkosuge@asahi.email.ne.jp、滝来京子 k-takirai@jcom.home.ne.jp、藤井 省 satofj00@jcom.home.ne.jp

俳壇

川床涼み白いうなじにシヤネルの香
星涼し水タバコ吸うニカブの眼

黒田 柿黒

ガラス窓に手足短く守宮の子
ミニバスの北山菖蒲園経由

菊田 一平

若き日のゆめはうつつか明易し
香氣立つ郷の新茶や筑後川

出田 邦山

多摩湖畔富士も塗り込め梅雨の雲
田植え無き学習田を抜ける風

井垣 稻雀

万緑に剥製の鳥放ちたき
戻る家の無きふるさとや蜷川

山口 泰山

一雨に二尺も伸びて庭の薔薇
飲酔に焼鮎わたのほろ苦し

八木 竜湖

神経痛疼き始める梅雨入りかな
梅雨寒やコルトレーンに沈みゆく

波多野 敏治